

令和4年度 学校評価アンケート分析

令和4年11月実施

<結果と分析>

	番号	成果・課題等	改善策・向上策・目標等
教務部	1	「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の合計が生徒・保護者ともに昨年度より増加した。学力を身につけるには継続的な学習活動が求められる。毎日の授業を大切にできるように今後も呼びかけていく。	「わかる授業」を実践できるように、校内外の研修等によって身につけた授業力向上のスキルを教員間で共有し、より一層の授業力向上を目指したい。また、家庭学習の時間を増やせるように週末課題を各教科で検討したい。
生徒指導部	2	「よく当てはまる」が生徒で昨年度と同様になっており、保護者で2.6%向上している。「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が生徒、保護者で9割弱となっており高い水準になっている。これは生活向上委員会の朝の「あいさつ運動」や交通安全委員会の「マナーアップ運動」が今年度活発に行われたり、年次を中心に生活指導かきめ細やかに行われていることが起因していると考えられる。	今年度の「朝のあいさつ運動」、「マナーアップ運動」での高い生徒の参加率を来年度以降も継続していきたい。また、新たに横断幕や掲示物などを作成し、あいさつやマナーの指導をしていきたい。また、生徒会を中心にあいさつや基本的生活習慣に関する声掛けを今後実施していきたい。
進路指導部	3	生徒の「よく当てはまる」と「だいたい当てはまる」を合わせた肯定的評価が92.0%→92.6%、保護者は82.1%→90.8%となっており、特に保護者の肯定的評価が増えている。一方、昨年度の「改善策・向上策・目標等」では、「保護者の否定的評価を10%未満に抑える」としていたが、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」を合計した保護者の否定的評価は14.1%→11.8%と減少はしたが、まだ10%未満に抑えることはできなかった。教員については肯定的評価が93.8%→96.8%と微増している。	・特に保護者の肯定的評価の増加については、新型コロナウイルスの流行により、進路行事が中止、縮小されていた昨年度までに比べ、徐々に行事、特に対外的なものが行えるようになってきたことが一因ではないか。 ・今年度達成できなかったが、保護者の否定的評価を10%未満に抑えるべく、進路指導部と年次間や学校と保護者間の連携を密にし、共通理解のもとで進路指導を進めたい。 ・具体的には、進路行事の内容、時期等の検討を継続して行い、より充実した内容としたい。また、各進路行事の意義・目的を年次会などで共有しそれを生徒にしっかり伝達した上で行うようにしたい。
保健厚生部	4	88.3%の生徒と90.8%の保護者が相談体制が「おおむねできている」と評価している。R3では保護者のうち17.9%が「できていない」と感じていたがR4では9.2%に減少。日頃から家庭との連絡を密にしていることから保護者理解が高まったと思われる。一方教員は変化はなかったが96.8%が「おおむね出来ている」と評価しており日々生徒優先に対応してきたことが伺える。	生徒・保護者に対するPRをさらに強化していきたい。入学式やPTA総会等でSC・SSWの紹介を行うとともに、提示物等で周知を図っていききたい。また学校全体が教育相談に取り組めるように研修会の実施やたより等を通してカウンセリングマインドの資質向上を図っていききたい。
生徒指導部	5	「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が昨年度より生徒で11.8%、保護者で7.9%向上している。これは昨年度から取り組んでいる、部活動活性化の成果の表れであると考えられる。また、各年次でも担任の先生を中心に生徒へ部活動に参加するよう積極的に声掛けを行い、生き生きと部活動に取り組んでいる生徒が多く見受けられる。	今後も部活動の活性化を生徒会を中心に呼びかけを実施したい。また、つねに部活動の活動状況などを把握しながら新たな部活動の設立や部活動の活動内容の精査等を行い部活動が活性化するように、はたらきかけていきたい。
	6	「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が昨年度より生徒で6.6%、保護者で3.5%向上している。コロナ禍においても体育祭や文化祭などの各種行事に積極的に取り組み、専門委員会も活発に活動したことで、生徒自身が積極的に取り組み充実感を味わうことができたからであると考えられる。	前期・後期生徒総会も充実した議論が交わされている。生徒会を中心に生徒にとって充実した学校生活が過ごすことで、成長できる学校になるよう努めていきたい。また、今年度同様に研修会や発表会に積極的に参加し、様々なキャンペーン等にも積極的に応募していきたい。
	7	「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が昨年度より生徒で16%、保護者で23%向上している。コロナ禍において、学校行事をできる範囲で最大限行ったことで生徒また保護者がそれらの行事を通して、生徒の成長に繋げることができ、有意義な行事であったと認識できたことが原因であると考えられる。	コロナ禍という状況のなか、その時々的情勢を考慮しながら、生徒、保護者、教員で情報を共有し、行事を実施していきたい。また、各々の行事において生徒、保護者が生徒の成長を実感できるよう努力していきたい。また、保護者にも生徒の活動の様子を発信していきたい。
教務部	8	生徒・保護者ともに昨年度よりも「あてはまる」と解答した割合が増えた。今後各系列で取り組んでいる特色を生かした授業や地域連携の校外活動について発信し、学校づくりに取り組んでいきたい。	「学校開放週間」は保護者が学習の様子を見ることができ貴重な機会だが、今年は保護者の参観は少なかった。しかし、文化祭の一般公開には多くの保護者に来校いただき、学習の取り組みを見ていただいた。次年度は一斉メールやホームページなどを活用して、来校いただく機会を増やしていきたい。
総務部	9	災害・非常時の避難方法や連絡方法が、昨年と比べて生徒の認識が上がっている。保護者については認識が少し減っている。	入学時に記載している「緊急連絡カード」で、保護者が届け出ている内容について、認識が不足していることが考えられる。家庭でも緊急時の対応について話し合いが持てるような取り組みを考える必要があると考える。
	10	学校の様子は、雁歌学報やホームページ、eメッセージなどで伝えている。昨年より生徒・保護者とも伝えられているという認識が上がっている。	現状行っている情報発信を、時機を逸せずスムーズにできるようにする。各部署と連絡調整を図り、計画的に進められるように。

	番号	成果・課題等	改善策・向上策・目標等
事務部	11	生徒・保護者の肯定的評価は前年度より増加したが、教員の評価は減少した。これは前年度の各教室等エアコン設置工事完了の影響が大きいと考える。	今年度は大きな工事が無かったため、教員の評価が減少したと考えるが、音楽室エアコン更新や地震の災害復旧等、可能な限りで施設・設備の整備を実施している。引き続き関係各課と連携し、教育環境を整備していきたい。
生徒指導部	12	「よく当てはまる」「だいたいあてはまる」が昨年度より生徒で5.8%、向上したのに対して、保護者で8.3%減少している。生徒は教科担当や担任が生徒への目配りがなされていること、年4回のいじめアンケートを実施していることが向上した原因だと考えられるが、その取組が保護者に伝わっていないことが保護者で減少が見受けられた。しかし、他の項目よりも低い水準になっていることは課題である。	今後も生徒の観察を丁寧にし、生徒の情報を職員で共有しながら未然防止に努めたい。また、「いじめはみつけようとしなないとみつからない」という意識と、いじめの定義、対応等は年に1回年度初めに職員に徹底していきたい。また、3者面談や保護者が来校される際しっかりと発信していきたい。
	13	「よく当てはまる」「だいたいあてはまる」が昨年度より生徒で9.9%、向上したのに対して、保護者で1%減少している。ただ保護者は90%と高い水準になっている。委員会や生徒会を中心に生徒会行事や学校行事が充実したものになっている。また、各系列、各教科で生徒が活躍できる場を設定していることがこのような結果になったと考える。	今後も系列や各教科、学校行事で生徒一人一人が活躍する場面を多く設定していき、マナーや基本的な生活習慣に関する指導も充実させながら、思いやりの心を育む講話や研修会等も実施していきたい。
教務部	14	4月当初に各授業でシラバスの確認などガイダンスを充実させることができたため生徒は「当てはまる」と回答した割合が増えた。しかし保護者は3ポイントほど下回った。	学校通信や年次通信を発行するときなどに、折に触れて教育目標や系列目標を伝え、発信していくようにする。
	15	シラバスへの記載や定期考査等の学習の振り返りの時など機会を見て説明を行っているため「当てはまる」と解答する割合が高い状態を維持できている。	評価方法については生徒、保護者ともに特に関心が高い部分である。日頃の学習活動の中でも分かりやすく丁寧な説明を続けていきたい。
	16	「科目選択ガイダンス」において、進路を視野においた選択肢を示し説明を行い、生徒の「当てはまる」の割合を増やすことに繋がった。保護者は「当てはまる」の割合が減少した。	保護者への説明として次年度は科目選択の時と、三者面談の時に丁寧に説明できるようにする。また説明の時に使用する資料を工夫し、より見やすく、わかりやすくする。
生徒指導部	17	「よく当てはまる」「だいたいあてはまる」が昨年度より生徒で8.3%、向上したのに対して、保護者で2.8%減少している。しかし、保護者も9割弱と高い水準になっている。年度初めに担任が生徒に生徒必携の読み合わせで周知し、保護者には、1年次は入学式、2・3年次はPTA総会で生徒必携を配布し校則の周知を図っていることに起因していると考えられる。	今後も年度初めに生徒には、生徒必携の読み合わせで校則を周知するとともに、保護者には生徒必携を配布し周知を図りたい。また、生徒指導提要の改訂に伴い、生徒や保護者、教員から挙がった校則の改善要望は社会の実情に沿って積極的に改善していきたい。
進路指導部	18	生徒の肯定的評価は85.1%→90.8%、保護者は79.1%→79.0%、教員は91.7%→96.8%であった。生徒の肯定的評価が増加しており各年次とも授業や総合的な探究の時間等を通して進路情報の提供がよくなったと考えられる。一方、保護者についてはまだ20%以上の否定的評価があり、課題である。	・生徒に向けての情報提供については、今後も継続して「進路の手引き」等を活用し、授業や、総合的な探究の時間で行っていききたい。 ・「進路通信」については、「進路情報を伝える」という行為はできているが、内容を理解していただいているか、過去行事を追った内容ばかりになっていないか疑問が残ることから、内容の改善に努め、保護者、外部への情報提供を十分に行いたい。 ・進路通信については学校HPへの掲載を継続して行っていききたい。
	19	生徒の肯定的評価は83.1%→90.7%、保護者は64.9%→71.4%、教員は93.7%→96.8%であった。昨年度に比べ、生徒が7.6%、保護者が6.5%、教員が3.1%肯定的評価が増加しているが、保護者の評価がまだ低い。	・18番とも関連して、「進路通信」の内容の改善等により、一層家庭で進路について話題にする機会を増やし、生徒や学校の様子が伝わるようにしていき、保護者の肯定的評価を増やしていきたい。 ・その他にも、生徒と保護者が進路について話し合える機会をなるべく多く提供できるよう工夫していきたい。
保健厚生部	20	生徒の92%保護者の84%が好意的な回答をしており「不十分」と回答したものは昨年度より減少している。コロナ禍も3年目を迎え感染症対策も浸透してきており不安が幾分軽減され、学校行事の制限も緩和され学校生活を送ることができたことも反映されているのではないかと。	学校で実施している感染症予防対策について今後も情報発信していくとともに、怪我や事故防止を含めて、他分掌と協力し指導を行っていききたい。保健講話や研修会、保健便りや保健委員会活動等とおして健康や安全に対する意識を高めていきたい。
総務部	21	授業や休み時間の図書館利用について、教員の多くが肯定的な回答をしているが、生徒・保護者からは半数以上が否定的な回答をしている。昨年度と比較しても微増といったところであり、両者に大きな乖離が見られる。定期的に図書館だよりを配布し、校内での掲示などを行っているが、教室から遠いことや、本を読む習慣のなさなどより、図書館へ足が向かないと考えられる。	図書館だよりの教室掲示や、掲示物で図書館の認知度を上げる。図書委員の活動で、各クラスへの声かけや広報活動など図書館利用につながるような活動を考えていきたい。授業での図書館利用もきっかけとして、利用回数の増加につなげていきたい。